

制吐剤の第一選択

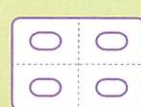
静脈内投与
が可能になりました



嘔吐を中枢からストップするのはセレニア®だけ

発売以来、最も獣医師に選ばれている
小動物用制吐剤 No.1ブランド*

セレニア®



錠剤



注射剤

*消化器用薬 2018年実績 富士経済調べ

FOR ANIMALS. FOR HEALTH. FOR YOU.

zoetis®

セレニア®注の 静脈内投与が可能になりました。

投薬手段の選択肢が増えます。

痛みの少ない治療に貢献します。

たとえば…

急性胃腸炎や
膵炎で入院時の
嘔吐管理に

抗がん剤
治療中の
嘔吐予防に



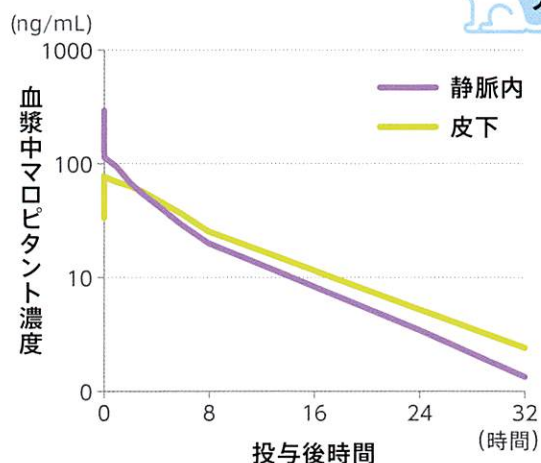
※ 写真はイメージです。

薬物動態

皮下投与時と同様の体内動態を示した事から、同等の嘔吐抑制・予防効果が期待できます。



犬

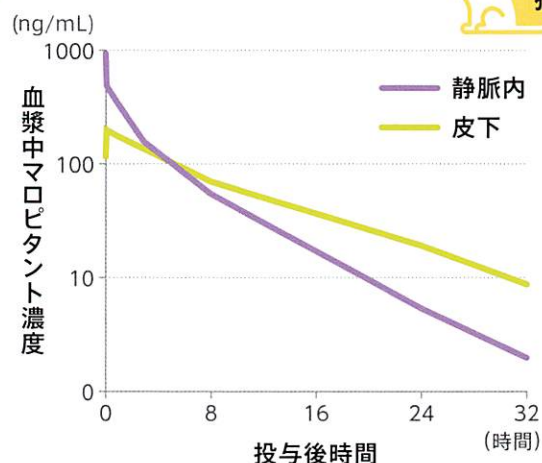


AUC _{0~∞} (ng·hr/mL)	皮下	静脈内
	736	678

- 8頭のビーグル犬
(雌雄各4頭、9ヶ月~3歳齢、体重9.3~11.5kg)
- 1mg/kg、静脈内及び皮下投与



猫



AUC _{0~∞} (ng·hr/mL)	皮下	静脈内
	1970	2120

- 8頭の雑種猫
(雌雄各4頭、6~7ヶ月齢、体重2.6~4.4kg)
- 1mg/kg、静脈内及び皮下投与

※ 本試験では犬猫共に15~30秒以内で静脈内急速投与を行った。

(申請資料より)

安全性

〈 静脈内投与での安全性試験 〉

いずれの試験においても、臨床的意義のある異常所見は認められませんでした。



犬

- 16週齢のビーグル犬
雌雄各4頭
- 最高常用量及び3倍量を1日1回、5日間反復静脈内投与
- 橈側皮静脈に25G翼状針で1~2分かけて緩徐に行った



猫

- 15~17週齢の雑種猫
雌雄各4頭
- 最高常用量及び3倍量を1日1回、5日間反復静脈内投与
- 橈側皮静脈に25G翼状針で1~2分かけて緩徐に行った

お陰様でセレニア®は日本で発売



周年

発売以来変わらず、

小動物用消化器用薬カテゴリーで

シェア **No.1***

* 消化器用薬 2018年実績 富士経済調べ

2007年1月

アメリカで発売



2011年7月

日本でセレニア®注・錠が
発売開始



2015年1月

日本でセレニア®注に
猫への効能追加



2019年6月

日本でセレニア®注に
静脈内投与追加



製品に関する
お問い合わせ先

ゾエティス・ジャパンお客様窓口

TEL.0120-317955 FAX.0120-317965

9:00~12:30、13:30~18:00 ※土日祝祭日、年末年始および弊社休業日は除く。

ゾエティス・ジャパン株式会社

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-22-7

目的に応じたセレニア®の使い方

セレニア®は、予防から治療までさまざまな目的に応じて、
剤型・投与方法・投与量を選択できます。



	錠剤		注射剤	
	<p style="text-align: center;">セレニア®錠</p> <p>〈実物大〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> セレニア®錠 16 (16mg[※]) セレニア®錠 24 (24mg[※]) セレニア®錠 60 (60mg[※]) </p>		<p style="text-align: center;">セレニア®注</p> <div style="text-align: center;">  <p>セレニア®注 20mLバイアル (10mg/mL[※])</p> </div>	
<p>効能効果</p>	急性嘔吐の抑制 及び予防	乗り物酔いによる 嘔吐の予防	嘔吐の抑制 及び予防	嘔吐の抑制
	対象動物：犬		乗り物酔いによる 嘔吐を除く	乗り物酔いによる 嘔吐を除く
<p>用法用量</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 2mg/kg[※] • 1日1回 • 最大5日間まで 経口投与 	<ul style="list-style-type: none"> • 8mg/kg[※] • 1日1回 • 最大2日間まで 経口投与 	<ul style="list-style-type: none"> • 1mg/kg[※] • 1日1回 • 最大5日間まで 皮下又は静脈内投与 	
	予防目的の場合1時間前までに投与			—
<p>体重</p>	2.0kg 以上	1.0kg 以上	—	—
<p>年齢</p>	16週齢以上			

※ マロピタントとして

劇 動物用医薬品 要指示

セレニア®注



主な変更点を赤字で示しています

セレニアは、ファイザー社(現ゾエティス社)により発見されたマロピタントクエン酸塩一水和物を主成分とする犬および猫用の制吐剤で、犬において嘔吐の抑制および予防、猫において嘔吐の抑制を適応とする動物用医薬品である。本剤は、ニューロキニン-1(NK1)受容体拮抗作用によるサブスタンスPの選択的拮抗薬で、中枢神経系における嘔吐反射の活性化に関与する共通の最終的伝達経路を阻害する。その制吐作用は広範で、中枢性および末梢性のいずれの嘔吐にも有効である。

【成分及び分量】

品名	セレニア注
有効成分	マロピタントクエン酸塩一水和物
含量	注射剤20mL中 289.84mg(マロピタントとして200.00mg)

【効能又は効果】

犬嘔吐の抑制及び予防(乗り物酔いによる嘔吐を除く)

猫嘔吐の抑制(乗り物酔いによる嘔吐を除く)

【用法及び用量】

体重1kg当たり本剤0.1mL(マロピタントとして1mg)を1日1回、最大5日間まで皮下又は静脈内投与する。犬で予防を目的とする場合は、1時間前までに投与する。

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。

(使用者に対する注意)

- ・本剤の皮下投与時にしばしば疼痛反応が発現することから、投与する動物を適切に保定すること。こうした疼痛反応は、本剤を低温で投与することにより緩和されることがある。

(犬及び猫に関する注意)

- ・本剤を静脈内に注射する場合は、1~2分かけて緩徐に投与すること。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・開封後は90日以内に使用すること。
- ・本剤は、他の注射剤・輸液等と混合しないこと。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・皮膚に付着した場合は直ちに水洗いすること。
- ・誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。
- ・誤って眼に入った場合は、直ちによく洗い流し、医師の診察を受けること。

(犬及び猫に関する注意)

- ・本剤の皮下投与により注射部位に一過性の疼痛が認められることがある。
- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(専門的事項)

①対象動物の使用制限等

- ・16週齢未満の犬及び猫には投与しないこと。
- ・交配予定及び妊娠・授乳中の犬及び猫には投与しないこと。
- ・消化管の通過障害又は有害物質の摂取により嘔吐していることが疑われる犬及び猫には投与しないこと。
- ・心疾患を有する犬及び猫には慎重に投与すること。
- ・本剤は肝臓で代謝されるため、肝疾患を有する犬及び猫には慎重に投与すること。

②重要な基本的注意

- ・嘔吐は重篤な衰弱を伴う場合があるため、嘔吐の原因となる基礎疾患を究明し、必要に応じて、本剤の投与と共に食事管理や補液等の他の支持療法を実施すること。

③相互作用

- ・本剤の主成分であるマロピタントはカルシウムイオンチャンネルに親和性を有するので、カルシウムイオンチャンネル拮抗薬と併用しないこと。
- ・本剤は血漿蛋白結合率が高く、蛋白結合率の高い他の薬剤と併用すると血漿中の蛋白との結合において競合し、本剤又は競合する薬剤の血漿中遊離型濃度が変化し、それぞれの薬剤の有効性又は安全性に影響するおそれがあるので、併用する際は十分に注意すること。なお、蛋白結合率の高い薬剤としては、非ステロイド性抗炎症薬、ループ利尿剤や炭酸脱水素酵素阻害剤等の利尿剤、一部のACE阻害剤及び抗凝固剤等がある。

④その他の注意

- ・本剤の同一部位への反復投与は避けること。
- ・注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと(ガス滅菌によるものを除く)。)。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。